

2023（令和5）年度

事業報告

2023年4月1日から 2024年3月31日まで

公益財団法人パブリックリソース財団

# 目次

## <事業活動>

1 公益目的事業の状況 .....	1
(1) 資金等の資源を募り、管理・活用する事業 .....	1
1) オンライン寄附サイト「Give One (ギブワン)」登録団体への寄附の募集.....	1
2) 財団運営への寄附.....	7
3) 社員参加型／顧客参加型寄附推進システムの提供・運営 .....	7
4) 寄附基金の運営による継続的な寄附の推進 .....	10
(2) 社会貢献活動についての情報提供、相談事業 .....	32
(3) 寄附を推進するための普及啓発活動等に関する事業 .....	32
1) 個人や企業等からの寄附を喚起するための事業 .....	32
(4) 社会的活動を行う団体等に対する助成事業 .....	32
(5) 社会的活動を行う団体等に対する寄贈事業 .....	32
(6) 社会的活動を行う団体等に対する研修事業 .....	32
(7) 調査研究、情報発信、政策提言に関する事業 .....	33

## <法人管理>

1 理事会・評議員会等.....	38
2 業務執行体制等.....	39
(1) 執行体制 .....	39
(2) 職員の状況.....	39

## 1 公益目的事業の状況

「公1 より良い社会の形成を推進するため、資金等の資源を募り管理活用し、また社会的活動を行う団体に対して助成、顕彰等を行うほか、社会貢献活動についての調査、研究、情報発信、相談・助言等を行う事業」にかかわる個別事業の本年度事業結果を以下に報告する。

### (1) 資金等の資源を募り、管理・活用する事業

広く個人や企業等からの寄附を社会的活動につなげていくもので、当財団の中心的な事業である。受け入れた寄附金を助成金として活用する側面を含めて、本項に記載する。

2023 年度に当財団が受け入れた寄附金は下記の通りである。当財団の呼びかけに賛同しご支援くださった、個人・企業の寄附者の皆様に深く感謝する。

◆寄附金	652,143,494 円
(内訳) 現金受領	647,361,145 円
現物受領	4,782,349 円

### 1) オンライン寄付サイト「Give One (ギブワン)」登録団体への寄附の募集

オンライン寄付サイト「Give One (ギブワン)」(以下、Give One)を運営し、不特定多数の市民、特に初めて寄附を行う人や仕事が忙しく社会貢献活動の機会のない人などを対象に、当財団による厳正な事前審査を経た、信頼できる団体の活動情報を提供し、寄附を募った。助成対象団体情報の更新、団体活動レポートの送信などを通じ、寄附者が助成対象事業を共に支えていることが実感できる仕組みを提供している。

2023 年度は、「今」の社会課題の解決をはかるために活動する多様な分野の団体を Give One に新たに認証登録するため、2023 年 11 月 14 日から 2024 年 1 月 16 日まで新規登録団体の公募を行い、北海道から沖縄まで、全国から 25 件の応募があった。「組織審査委員会」での審査結果をもとに「プロジェクト審査委員会」で審査を行うという 2 段階方式で審査を行っている最中であるため、2023 年度末現在で登録団体は 222 団体となっている。

また、登録プロジェクト数は常時変動があるものの、年度末時点での状況としては 293 のプロジェクト掲載となった。

2023 年度 (2023 年 2 月～2024 年 1 月) にオンライン経由で申し込みがあった総寄附金額は合計 16,605,690 円で、19,612,068 円であった前年度 (2022 年 2 月～2023 年 1 月) と比較し寄附金額が減少する結果となった。

2023年度（2023年2月～2024年1月）の受入寄附金から、振込手数料、サイト運営や事務局運営管理費等を除いて、登録団体に対し助成した金額は、13,945,682円であった。

登録団体別の2023年度の受付寄附金額は下表のとおりである。

なお、寄附金額抽出の対象期間が、上記の寄附受入総額では2023年2月～2024年1月であるのに対し、オンラインシステム上の制約により、下表で抽出した対象期間は2023年4月～2024年3月末までの団体別寄附金額となっている。そのため、2023年度の寄附受入総額が異なっており、下表はあくまで参考値として参照されたい。

※受入寄附金額降順

団体名	受付寄附金額 (2023.4～2024.3)
Learning for All	2,683,000
パブリックリソース財団	2,513,850
難民を助ける会 (AAR Japan)	1,825,860
Earth Company (アース・カンパニー)	1,249,800
秋田たすけあいネットあゆむ	659,020
グッドネーバーズ・ジャパン	582,112
アスイク	425,000
日本クマネットワーク (JBN)	419,480
日本教育再興連盟	400,500
びじっと・離婚と子ども問題支援センター	384,000
子どもセンター「パオ」	365,300
ケア・インターナショナル ジャパン	313,000
全国女性シェルターネット	307,000
Music Cross Aid・パブリックリソース財団事務局	299,900
インフォメーションギャップバスター	249,000
レインボーリボン	233,000
子どもの虐待防止センター	217,000
エバーラスティング・ネイチャー	200,600
公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)	167,000
女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ	166,027
はたらく女性の全国センター(ACW2)	151,000
霧多布湿原ナショナルトラスト	145,000

維新隊ユネスコクラブ	141,000
長野サマライズ・センター	136,000
パレスチナ子どものキャンペーン	132,800
フェアスタートサポート	123,300
アムダ (AMDA)	118,870
認定 NPO 法人フードバンク山梨	114,300
ブリッジフォースマイル	110,000
ばれっと	107,500
地球の友と歩む会 (LIFE)	103,300
国際環境 NGO FoE Japan	101,000
フードバンク関西	99,700
キッズドア	97,300
フローレンス	92,000
シャンティ国際ボランティア会	87,000
インターナショナルフォスターケア アライア ンス	85,000
日本地雷処理を支援する会 (JMAS)	81,000
ASIAN PEOPLE'S FRIENDSHIP SOCIETY	79,000
越谷らるご	73,027
SOS 子どもの村 JAPAN	72,000
チャイルド・リソース・センター	71,000
子どもシェルターモモ	70,000
ジャパンハート	69,650
ピース ウィンズ・ジャパン	68,000
カパティラン	67,000
チャイボラ	66,000
きょうとグリーンファンド	64,000
ハンガー・フリー・ワールド	64,000
民際センター	63,000
気候ネットワーク	61,770
バイリンガル・バイカルチュラルろう教育セ ンター	58,000
メロディ	48,000
日本 IDDM ネットワーク	48,000

CAP センター・JAPAN	47,000
みんなのことば	46,000
SGSG	41,600
Piece of Syria	38,000
棚田 LOVER's	38,000
わたぼうし教室	37,000
エンドオブライフ・ケア協会	36,000
タンザニア・ポレポレクラブ	36,000
フィリピン日系人リーガルサポートセンター	36,000
HANDS	33,000
ユースコミュニティー	32,000
日本鳥類保護連盟	30,000
子どもの虐待防止ネットワーク・あいち (CAPNA)	29,000
やまがた福わたし	27,500
トラ・ゾウ保護基金	26,000
白神山地を守る会	26,000
リンク トゥ ミャンマー	25,000
地球市民の会	25,000
おてらおやつクラブ	24,000
荒川クリーンエイド・フォーラム	23,000
東京 YWCA	21,493
日本生態系協会	20,000
難病の子どもとその家族へ夢を	18,000
アイキャン	17,000
桜ライン 311	17,000
緑の地球ネットワーク	17,000
ウィメンズアイ	16,000
ビッグイシュー基金	16,000
東京都ひとり親家庭福祉協議会	16,000
JHP・学校をつくる会	15,000
トゥギャザー	15,000
コクレオの森	13,476
いるか	13,300

サンクチュアリ エヌピーオー	13,000
河北潟湖沼研究所	13,000
アムネスティ・インターナショナル日本	12,000
コンパスナビ	12,000
ソシリッサ	11,000
共生福祉会	11,000
チャイルドラインあいち	10,000
とりで	10,000
Giving Tree	9,000
bankup / 学生人材バンク	8,000
ぽっかぽかランナーズ	8,000
ワンファミリー仙台	8,000
大雪山自然学校	8,000
特定非営利活動法人 RAFIQ	8,000
Colabo	7,000
あきた結いネット	7,000
3keys	6,000
Homedoor	6,000
クロサワ育成財団	6,000
ビーンズふくしま	6,000
ポケットサポート	6,000
虹色ダイバーシティ	6,000
DV 対策センター	5,000
ReRoots	5,000
たんぽぽの家	5,000
チャリティーサンタ	5,000
知床自然大学院大学設立財団	4,000
JUON NETWORK (樹恩ネットワーク)	3,000
アクセプト・インターナショナル	3,000
さいたまユースサポートネット	3,000
ピアサポートネットしづや	3,000
ぴいかあぶう	3,000
芸術と遊び創造協会	3,000
高木仁三郎市民科学基金	3,000

楠の木学園	3,000
日本ウミガメ協議会	3,000
日本クリニックラウン協会	3,000
おおいた環境保全フォーラム	2,000
ブリッジ エーシア ジャパン	2,000
国際ビフレンダーズ 東京自殺防止センター	2,000
5years	1,000
hareruya	1,000
more trees	1,000
あおもり NPO サポートセンター	1,000
アジア・アフリカと共に歩む会	1,000
アフリカ日本協議会	1,000
フォトボイス・プロジェクト	1,000
ホープフル・タッチ	1,000
日本ダウン症協会	1,000
<b>合 計</b>	<b>17,860,335</b>

クレジットカード、ペイジー以外の決済手段による、Give One 認証登録団体に対する寄附は 1,835,984 円で、2023 年度は 761,586 円の資金助成を行なった。

寄附者名	受入寄附金額
企業 (4 件)	835,984
個人 (1 件)	1,000,000
<b>合計</b>	<b>1,835,984</b>

助成対象団体名	助成額
フェアスタートサポート	634,086
維新隊ユネスコクラブ	102,000
アスイク	25,500
<b>合計</b>	<b>761,586</b>



## 2) 財団運営への寄附

当財団の賛助会費（運営費 100%）は、638,500 円だった。

## 3) 社員参加型／顧客参加型寄附推進システムの提供・運営

### <ゆきぐにの未来基金>

本基金は、ゆきぐに信用組合（旧：塩沢信用組合）と協働して、ゆきぐに信用組合の営業エリア（新潟県南魚沼市、魚沼市、十日町市、小千谷市、湯沢町、津南町、長野県栄村）の未来を切り拓く人材や団体を支援し、地域の誰もがいきいきと暮らせるふるさと魚沼を、将来にわたって継承・発展させることを目的として創設した。

本基金は、信用組合が組合員に呼びかけて寄附を募り共に地域に貢献するという、金融機関が「社会貢献のプラットフォーム」を提供する日本初の取り組みである。

なお、本基金名称は 2023 年度に変更となった。これは、寄附者であるゆきぐに信用組合（旧：塩沢信用組合）が組合名称の変更と営業エリアの拡大を行なったためである。

寄附は「信組ゆきぐに奨学金」（返済不要の高校生向け奨学金制度）に活用され、新 1 年生一人当たり 96,000 円（入学準備金 36,000 円、月例奨学金 60,000 円（5,000 円×12 か月））、新 2、3 年生は 60,000 円（月奨学金 60,000 円（5,000 円×12 か月））を支給している。

2023 年度は 271 件、8,344,815 円の寄附金を受け入れた。

また、「第八期信組ゆきぐに奨学金」対象者として、新潟県南魚沼市、魚沼市、十日町市、小千谷市、湯沢町、津南町、長野県栄村のひとり親家庭の子女 64 名（新 1 年生 20 名・新 2 年生 20 名・新 3 年生 24 名）の奨学生の選定を行った。

2023 年度の奨学金支給は、第七期奨学生 50 名に対して月例奨学金、第七期奨学生の内 3 年生に卒業お祝い金、第八期奨学生のうち新 1 年生に入学準備金を支給した。

2023 年度は、2022 年度同様に「地元企業を知り将来の職業選択の視野を広げてもらうこと」そして「地元の名所旧跡を訪ねることにより郷土愛を育むこと」を目的に「思い出づくりバスツアー」を奨学生とその家族を対象として、8 月 6 日に開催した。当日は計 26 名が参加し地元企業や旧跡を訪ね、奨学生の将来について考える機会とした。また、2023 年度より、さらにキャリア教育に重きを置いた「地元企業見学バスツアー」を、奨学生および卒業生、その家族を対象として 8 月 20 日に開催した。当日は計 7 名が参加し地元企業を訪ね、奨学生の進路選択について考える機会とした。

受入寄附金額	8,344,815 円
助成額	第七期：3,000,000 円 第八期：720,000 円（新 1 年生に対する入学準備金のみ） 卒業祝金：120,000 円（10,000 円×12 人）

	思い出づくりバスツアー・地元企業見学バスツアーに係る費用： 385,976円 合計：4,225,976円
公募	2023年10月1日～12月15日
応募	65名
審査会	2024年1月29日
選考委員	有森 直子（新潟大学大学院保健学研究科 教授） 林 茂男（南魚沼市長） 内田 幹夫（魚沼市長） 小野澤 一成（ゆきぐに信用組合 理事長）
審査結果	65人を奨学生として選定、その後1名辞退となり64名
助成期間	2024年3月1日～2025年3月31日

<大和証券グループ サンタチャリティープログラム>

本プログラムは、大和証券グループの社員による寄附を原資とし、社会的養護にいる子どもたちやNPO等の支援を受けるひとり親家庭やその子どもたちに対して、NPO等の団体を通じてクリスマスシーズンにおもちゃ、お菓子などをプレゼントする基金である。

2023年度は、1,597件8,888,909円の寄附金を受け入れた。審査委員会により25件の団体が採択され、おもちゃセットとお菓子セットを寄贈した。

受入寄附金額	10,888,909(大和証券グループ社員ならびに大和証券グループ本社からの寄附総額)円
寄贈数	おもちゃセット：99セット お菓子セット：2,100セット
公募	2023年10月23日～2023年11月10日
応募件数	25団体
審査会	2023年11月20日～2023年11月27日（メールによる持ち回り審査）
選考委員	小河 光治（公益財団法人あすのば 代表理事） 岸本 幸子（公財団法人パブリックリソース財団 専務理事） 吉田 光太郎（株式会社大和証券グループ本社経営企画 部長）
寄贈先選定結果	以下の25団体を助成対象として選定した 公益財団法人 慈友会 慈友学園 沖縄県マザーズスクエア ゆいはあと北部 沖縄県マザーズスクエア ゆいはあと

<p>一般社団法人 サポートセンターHOPE  社会福祉法人 厚生館 厚生館立花  認定 NPO 法人 ファミリーハウス  グリーンヒル相模原  公益社団法人 那覇市母子寡婦福祉会  母子生活支援施設 愛知昭和荘  マザーズスクエアうるはし  愛知しらゆり荘  沖縄県マザーズスクエア ゆいはあと中部  認定 NPO 法人 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク  一般社団法人 あだち子ども支援ネット  NPO 法人 Mama's Cafe  名古屋文化福祉会 名古屋文化キンダーホルト  認定 NPO 法人 エデュケーションエークューブ  NPO 法人 フードバンクセカンドハーベスト沖縄  新潟県フードバンク連絡協議会  認定 NPO 法人 ふーどばんく OSAKA  認定 NPO 法人 キッズドア  ライトハウス新宿チャーチ  赤十字子供の家  認定 NPO 法人 皆繫  児童養護施設なかべ学院</p>
---

<フコク生命 THE MUTUAL 基金>

本基金は、富国生命保険相互会社が創立 100 周年を記念し、困難に直面する子どもたちとその家族を応援することを目的に創設された。

本基金は、2023 年 12 月 2 日より「フコク生命 寄付サイト」を公開し、基金の趣旨に共感する社員や顧客、取引先、職員・役員からの「共感寄付」をオンラインで受け付けている（後述：コーポレートアクション・募金）。その寄附金を原資とし、2024 年度以降に助成事業を実施する予定である。

2023 年度は、3 件 10,067,000 円の寄附金を受け入れた。

本基金では、当財団が 2022 年度より開発を行っていた「コーポレートアクション・募金」という、新しい企業主導の社会貢献の仕組みを採用している。「コーポレートアクション・募金」は、企業が自社のパーパスやマテリアリティに合わせて、社会課題への取り組み方針を決め、ハブとなり、役職員をはじめ顧客等に呼びかけを行って寄附を募り、社会課題解決に取り組むという新しい仕組みである。

「コーポレートアクション・募金」は、主にオンライン上で共感を生み出し、寄附に繋げることを想定している。その際に活用するのが、同じく当財団が開発したオンライン寄附プラットフォーム「Original Giving Site」である。このプラットフォームをベースに、企業ごとにカスタマイズした寄付サイトを構築するスキームである。

本基金においても「フコク生命 寄付サイト」については、「Original Giving Site」をベースに構築を行なった。

#### 4) 寄附基金の運営による継続的な寄附の推進

今期は下記の基金を運営した。それぞれ「4-1) 企業基金」「4-2) 個人基金（遺贈・相続財産による基金も含む）」「4-3) テーマ基金」「4-4) 民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律に伴う事業」の順で報告する。

##### 4-1) 企業基金

###### <未来につなぐふるさと基金>

本基金は、キャノンマーケティングジャパン株式会社が使用済みカートリッジの回収本数と PPC 用紙（コピー紙）の販売数に応じ同社が実施する寄附や、古本の回収等による一般からの寄附も受け付けている。本基金への 2023 年度受入寄附金額は 44,250 円だった。

2023 年度は、本基金のプログラム全体の見直しをはかっていた。2024 年度より、プログラムの刷新を行い、新規団体の公募を実施する。

###### <ゴールドマン・サックス基金>

本基金はゴールドマン・サックス証券株式会社の持田昌典前社長のイニシアチブで創設され、子どもの貧困問題に取り組む団体を支援している。前持田社長は米国の大学で学んで飛躍した自身の経験から「教育を受けるチャンスがあることは重要だ」と基金の創設を行った。

本基金では、Give One 認証登録団体の中から、NPO 法人 Learning for All（以下、LFA）を選択し、同団体が展開する学習支援などのプログラムに 2018 年度より 3 年間で計約 4 億円の資金助成を行い、延べ約 750 人の子どもたちへの教育支援を目指し取り組んできた。2020 年度までの 3 年間のプログラムで、葛飾区の他、つくば市、戸田市と 3 か所の異なる地域拠点で“支援を必要とする子どもを見つけ、繋がり、支援する”ための事業モデル「子ども支援の生態系モデル（CES モデル）」を構築し、結果としてつながった子どもたちはのべ 1700 人にのぼった。2021 年度からの 3 年間は新たなフェーズと位置づけ、これまでに取り組みを通じて構築した CES モデルを全国に模倣・展開可能とすべく取り組んでいる。

2023 年度は、420,659,035 円の寄附金を受け入れ、LFA に対し 108,828,733 円の資金助成を行なった。LFA は、助成金をもとに、既存の各拠点での活動の継続に加えて、CES モデル

が全国に波及していくための環境整備として、制度化に向けた政策提言活動に取り組み、子ども支援における法・制度へのCESモデル導入推進に貢献した。さらに、CESモデルの成果の測定・評価活動にも取り組んだ。

また、2023年度に受け入れた寄附金をもとに、2024年度からさらに3年間、次の支援フェーズがスタートする予定である。

受入寄附金額	420,659,035円
助成額	108,828,733円
受益者数	年約800人

#### <ゴールドマン・サックス地域協働型子ども包括支援基金>

本基金は、ゴールドマン・サックス基金により2018年度から3年間に渡って、“子どもと出会い・繋がり・支える”子ども包括支援に取り組んできた認定NPO法人 Learning for All（以下、LFA）が、これまで培ってきたノウハウと経験を伴走支援しながら伝えていくとともに、全国の子ども達を支える実践者の応援を行っていくというコンセプトのもと、ゴールドマン・サックスの寄附をもとに2021年度に創設されたものである。

地域特性に即した「地域協働型子ども包括支援」の継続的実践をめざして体制構築、組織基盤強化、活動の強化や支援拡充に取り組む団体に対し、資金助成を行うと共に、LFAによる伴走支援を提供する。

2023年度は「助成タイプA：地域協働型子ども包括支援構築・組織基盤強化助成（3か年継続助成）」の助成対象である4団体について、継続審査を行い事業継続のために24,000,000円の資金助成を行なった。なお、助成タイプBについては単年度の助成期間のため、2022年度に終了している。

2023年度は85,836,500円の寄附金を受け入れ、2024年度より新たに助成事業を展開する予定である。

受入寄附金額	85,836,500円（2024年度以降に活用）
助成額	24,000,000円（2023年度分として）
審査会	継続助成審査会：2023年3月17日
審査委員	宮本 みち子（放送大学 客員教授・名誉教授, 千葉大学 名誉教授） 松田 知佳子（ゴールドマン・サックス証券株式会社 コーポレート・エンゲージメント 社会貢献担当） 土屋 佳子（日本社会事業大学専門職大学院 非常勤講師） 番野 智行（NPO法人 ETIC. ソーシャルイノベーション事業部 マネージャー／事業統括） 李 炯植（NPO法人 Learning for All 代表理事）
審査結果	以下の4団体を選定した（継続）

	NPO 法人 ビーンズふくしま NPO 法人 ダイバーシティ工房 NPO 法人 STORIA NPO 法人 いるか
助成期間	助成決定時～2024 年 3 月 31 日

#### <MHD 緊急災害支援基金>

本基金は MHD モエ ヘネシー ディアジオ株式会社より創設され、災害が起こった際に会社として緊急に募金するための基金である。政府より「特定非常災害」と指定された災害の際に、当財団の運営する Give One が選定した団体の中から、緊急支援を実施している団体に対して、基金内から助成金を交付するものである。2023 年度は、令和 6 年度能登半島地震の被災地支援を実施している 3 団体に各 100 万円の資金助成を行った。なお、新規の寄附金の受け入れはなかった。

助成額	3,000,000円
助成対象団体	Give One 認証登録団体から以下の3団体を助成対象とした 認定NPO法人難民を助ける会 認定NPO法人グッドネーバーズ・ジャパン 認定NPO法人ジャパンハート

#### <Music Cross Aid 基金>

本基金は、一般社団法人 日本音楽事業者協会、一般社団法人 日本音楽制作者連盟、一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会の音楽業界 3 団体が発起人となり創設された。本基金は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動の継続が困難を極めている日本の音楽ライブエンタテインメント産業を担う事業者や専門スタッフ（フリーランスの個人）を支援し、音楽ライブエンタテインメント産業の現在とその未来を守る一助となることを目的としている。

2023 年度は 1,126,312 円の寄附金を受け入れた。新型コロナウイルス感染拡大後の外部環境が大きく変化し、音楽ライブエンタテインメント産業に与える影響も変化している。2022 年度より引き続き 2023 年度も環境変化に関する情報収集とプログラム内容の変更も含めた検討を進めた。

#### <大和証券グループ未来応援ボンド こども支援団体サステナブル基金>

本基金は、新型コロナウイルスのような感染症の流行や昨今の豪雨災害、また今後予期される首都直下型地震・南海トラフ地震等の自然災害の発生時においても、子どもが必要な支援を継続的に受けることができるよう、子ども支援団体が平時より団体運営の持続可能性

とレジリエンスを高めることを応援するものである。なお、2020年6月に発行した社債「大和証券グループ未来応援ボンド」の手取金の一部を本基金への寄附金に充当している。

本基金の助成金プログラムは、1団体につき350万円を上限とした助成金を支給する。2023年度は新規公募を行わずに、既存団体の伴走支援および報告会の実施を行なった。

#### <東京海上日動キャリアサービス 働く力応援基金>

本基金は、様々な理由で働くことに困難を抱える方々を、働きがいのある就労につなげ、インクルーシブな世界の実現を図ることを目的に、株式会社東京海上日動キャリアサービスからの寄附をもとに創設された。本基金では、全ての人々が自分で職業を選ぶことができる社会、働く権利を保障される社会を目指し、「働くを求める人」の就労を促進し、社会課題の解決を行う就労支援のNPO等に対し、資金助成を行う。

貧困や子どもをテーマにした助成は数多くある中で、就労困難性に着目した助成プログラムは珍しく、貧困の原因やバックグラウンドにアプローチした画期的な助成プログラムとなっている。

2020年度に受け入れた150,000,000円の寄附金をもとに、2021年度から3年間助成事業を継続して行った。2022年度に3年目の公募で選定した10団体の助成期間中である2023年度には、全団体が参加する意見交換会をオンラインにて開催。東京海上日動キャリアサービス五十嵐社長も参加し、各団体の活動についてのプレゼンと意見交換会を実施し、活発な議論と情報交換を行った。

東京海上日動キャリアサービス働く力応援基金意見交換会	
開催日時	2023年9月28日、10月23日
場所	ZOOMによるオンライン実施
参加者	東京海上日動キャリアサービス、助成対象団体代表者および担当者

#### <エプソン社会の幸せ支援基金>

本基金は、「安定的な経済付加価値の再分配」を目的とした寄附を通じ、貧困の解消、子どもの支援、女性や社会的弱者の経済的自立を支援するために、セイコーエプソン株式会社により創設された。本基金では、①ひとり親世帯（特にシングルマザー）や経済的に困窮している女性への支援事業・活動を行っているNPO等の非営利団体、②困窮世帯の子どもやヤングケアラーに対する支援事業・活動を行っているNPO等の非営利団体に対して助成金を支給し、女性の経済的自立や貧困の解消と、子どもたちの健康と教育機会の確保を図り、持続可能な社会の幸せの実現を目指す。

2023年度は前年度に受け入れた7,000,000円の寄附を原資とし、全15団体に対して合計4,270,800円の資金助成を実施した。

過年度寄附金額	7,000,000 円
助成額	4,270,800 円
公募	2023 年 6 月 12 日～2023 年 7 月 18 日
応募	25 件
審査会	2023 年 8 月 29 日
選考委員	小河 光治（公益財団法人あすのば 代表理事） 飯島 慎也（セイコーエプソン株式会社 総務部（本社） 課長） 植野 ルナ（公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会 事業企画課長） 三島 理恵（認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ 理事）
審査結果	以下の 15 団体を選定した NPO 法人あきた子どもネット NPO 法人秋田たすけあいネットあゆむ あじさいの集い富士見 NPO 法人 utagu NPO 法人こどもの未来をかんがえる会 NPO 法人こどもプロジェクト NPO 法人さつきファミリー NPO 法人 3keys ひとりひとりの気づきを大切にする パーム・アウエア NPO 法人陽向ぼっこ 府中 JSL 学習支援の会 mamaconcierge Wednesday NPO 法人もりの学校 一般社団法人やまがた福わたし NPO 法人ゆめみ～る
助成期間	2023 年 9 月～2024 年 3 月末

#### <野村グループ基金>

本基金は、野村グループが掲げる「金融資本市場を通じて、真に豊かな社会の創造に貢献する」という社会的使命のもとで企業市民としてより大きな社会的責任を果たすため、資金的支援を通じて、持続可能な社会の実現に貢献することを目指し、「野村グループ基金」として創設された。2023 年度は野村グループより 60,000,000 円の寄附を受領した。その寄附金を原資として、来年度「みらい助成プログラム」を野村グループとパブリックリソース財団とのパートナーシップにより運営する予定である。



#### 4-2) 個人基金（遺贈・相続財産による基金も含む）

##### <ふくしま未来基金>

本基金は福島県内の篤志家及び地域貢献を目指す企業からの寄附で創設された地域基金である。基金創設時に受け入れた大口寄附をもとに運営を行っている。

2023年度は、新規助成団体の募集は行わず、また新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、2020年度まで実施していた「NPO マネジメントコンサルタント養成講座」「ふくしま志高塾」も実施しなかった。

##### <ゆーじチャレンジ基金>

本基金は、将来の医療福祉分野での活躍を願って、静岡県内の児童養護施設または里親宅（ファミリーホーム含む）で暮らしている児童が高校卒業後に進学する授業料を助成し、児童の社会的自立を支援することを目的に創設された。一人当たり総額 100 万円の返済不要の奨学金を支給する。

2023年度は 1,260,000 円の寄附金を受け入れた。奨学金審査会にて、1名の奨学生を選定した。

受入寄附金額	1,260,000 円
助成額	1,400,000円（過年度奨学生への奨学金給付を含む）
公募	2023年6月26日～8月28日
応募	7件
審査会	2023年10月18日 一次書類審査会（オンライン実施） 2023年10月28日 二次面談審査会（書類審査通過者3名）
選考委員	小野田 全宏（静岡県ボランティア協会市民活動センター 理事長） 日詰 一幸（静岡大学 学長） 岸本 幸子（公益財団法人 パブリックリソース財団 代表理事）
審査結果	1名を奨学生として選定した
助成期間	2024年4月1日～2026年3月31日

##### <ゆーじ基金ひとり親支援プログラム>

本基金は、将来の子ども達の活躍を願って、コロナ禍で医療の最前線に立つ看護師の子女を支援することを目的として、静岡県中東遠地域の病院に勤めるひとり親の看護師の子女を対象に、高校進学・進級にあたって必要となる費用の一部を、一人あたり 10 万円のお祝い金（奨学金）として支給し、子女の学校教育の継続を支援する。

2023年度は、1,417,500 円の寄附金を受け入れた。奨学金選考委員会にて、8名の奨学生

を選定した。

受入寄附金額	1,417,500円
助成額	800,000円
公募	2023年1月16日～2023年2月28日
応募	8件
審査会	2024年3月(書類選考の持ち回り審査を実施)
選考委員	小野田 全宏 (静岡県ボランティア協会市民活動センター 理事長) 日詰 一幸 (静岡大学 学長) 岸本 幸子 (公益財団法人パブリックリソース財団 代表理事)
審査結果	8名を奨学生として選定
助成期間	奨学生決定時～2024年3月31日

#### <高山弘子基金>

本基金は、個人からの遺贈により 2018 年度に 55,250,000 円の寄附を受け入れ創設された。寄附者の生前の遺志に従って「恵まれない環境を余儀なくされた子ども達」のために役立つために、貧困により生活に困難を抱えている子どもやその家庭に対して支援を行う NPO 法人等の民間非営利組織に対し資金助成を図り、その活動を支援することを目的としている。助成金の使途は、本基金の目的に合致するプロジェクトに限定して活用され、本基金の残高が無くなるまで、全国の恵まれない環境を余儀なくされた子ども達のために、幅広い分野で役立てられる。

2023 年度は、助成最終年度となることから、寄附金残額 1,120 万円を使い切ることとし、Give One の認証登録団体から、本基金の目的に合致する活動を行っている全ての団体を選出し、全 21 団体に対して、1 団体あたり 53.4 万円、合計 11,214,000 円の資金助成を行った。尚、超過額 14,000 円については、事業費より拠出をした。

受入寄附金額	0円
助成額	11,214,000 円
助成対象団体	Give One認証登録団体から以下の21団体を助成対象とした 認定NPO法人 グッドネーバーズ・ジャパン 認定NPO法人 フードバンク山梨 NPO法人 いるか NPO法人 ビーンズふくしま 認定NPO法人 キッズドア 認定NPO法人 Learning for All

	認定NPO法人 女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ 認定NPO法人 越谷らるご 認定NPO法人 フローレンス NPO法人 ピアサポートネットしぶや NPO法人 フェアスタートサポート 認定NPO法人 ブリッジフォースマイル 認定NPO法人 SOS子どもの村JAPAN 一般社団法人 やまがた福わたし NPO法人 ユースコミュニティ NPO法人 Giving Tree 一般社団法人 ちろる NPO法人 秋田たすけあいネットあゆむ 認定NPO法人 3keys おてらおやつクラブ NPO法人 レインボーリボン
助成期間	2024年1月1日～2024年12月31日

#### <I. H. K 基金>

本基金は、将来の医療福祉分野での活躍を願って、東京都内の児童養護施設または里親宅で暮らしている児童（女子）が高校卒業後に進学する授業料を助成し、児童の社会的自立を支援することを目的に創設された。専門教育機関を卒業するまで一人当たり総額 100 万円の返済不要の奨学金を支給している。また、認定 NPO 法人 ブリッジフォースマイルと連携し、就学期間中、対象者に若い社会人ボランティアを派遣し、社会的自立に向けて近い年齢層からの相談しやすい環境を提供していく。

2023 年度は 1,350,000 円の寄附金を受け入れた。

2023 年度は、現行の奨学生のフォローアップを実施するとともに、公募を実施し新たに 1 名の奨学生を選定した。

受入寄附金額	1,350,000円
助成額	700,000円（過年度奨学生への奨学金給付を含む）
公募	2023年7月18日～9月29日
応募	2件
審査会	2023年11月26日（面談審査会）

選考委員	高橋 亜美（社会福祉法人 子供の家 ゆずりは 所長） 土屋 佳子（日本社会事業大学専門職大学院 非常勤講師） 吉原 志麻（NPO法人フェアスタートサポート 営業部コーディネーター）
審査結果	1名を第6期奨学生として選定
助成期間	2024年4月1日～卒業時まで

#### <謝縁教育基金>

本基金は「自身が生きてくる中で、多くの皆様からいただいたご恩を次の世代に送り、自分が人生で大切にしてきた志を次の世に遺したい」という寄附者の想いにより2019年度に創設された。困難を抱える若者への教育支援や、不登校や発達障害の若者の居場所づくりに取り組むNPO法人等の活動を支援することを目的としており、Give Oneの認証登録団体から、1団体あたり50万円を6年間、合計6,000,000円の資金助成を行う予定である。

2023年度では、本基金の目的に合致する活動を行っている下記2団体に対し、継続助成を行った。

受入寄附金額	0円
助成額	1,000,000円
助成対象団体	認定NPO法人 Learning for All NPO法人 楠の木学園
助成期間	2020年4月～2026年3月

#### <移民・難民支援基金>

本基金は、日本国内の難民、移民、技能実習生、外国人労働者とその家族など、外国籍または外国にルーツをもつ人々への支援を行っているNPO法人等の民間非営利組織に対し、資金助成をはかり、その活動を支援することを目的として創設された。

近年、難民に対する非人道的な扱いはメディアでも度々報道されるようになってきたが、本基金はいち早くこの社会問題を取り上げ、どの助成団体より先んじて支援を開始した大変意義のある助成プログラムである。

2023年度は、400万円の寄附を受入れ、1団体あたり30～80万円の資金助成を行い、全5団体に対して合計320万円の資金助成を実施した。

受入寄附金額	4,000,000円
助成額	3,200,000円
公募	2023年7月3日～2023年7月31日

応募	29件
審査会	2023年9月7日
選考委員	田村 太郎（一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事） 鈴木 江理子（国士舘大学文学部 教授） 杉本 大輔（全国難民弁護団連絡会議 事務局）
審査結果	以下の5団体を選定した すべての外国人労働者とその家族の人権を守る関西ネットワーク（RINK） 松山さかのうえ日本語学校 NPO法人難民自立支援ネットワーク NPO法人難民支援協会 クルドを知る会
助成期間	2023年10月1日～2024年9月30日

#### <じゅんき教育基金>

本基金は、公益財団法人が不動産等の現物寄附を受け入れすることができる租税特別措置法の特例措置を適用して設置した基金である。寄附を受けた不動産を有価証券に買い換えて、その運用益を公益目的事業に充当する形で運用している。

公益事業での活用方法としては、困難を抱える子どもの教育支援を目的に、該当の活動を行っている NPO 法人等の民間非営利組織に対し資金助成を行う。2023 年度は今後具体的なプロジェクトを実施するための資金を捻出するため、投資信託等による資金運用を実施した。

#### <ビックブリッジ基金>

本基金は、海洋プラスチックゴミ問題に関連する環境保全活動や一般啓発活動を行っている NPO 法人等の民間非営利組織に対し資金助成を図り、その活動を支援することを目的として、2019 年度に 1,000,000 円の寄附を受け創設された。2023 年度も、Give One 認証登録団体から、本基金の目的に合致する活動を行っている下記 1 団体に対して 17 万円の資金助成を行った。尚、本基金は今年度助成最終年となる。

当助成金の使途は、本基金の目的に合致するプロジェクトに限定して活用され、5 年間継続して、海洋プラスチックゴミ問題の活動支援のために役立てられた。

受入寄附金額	0円
助成額	170,000円
助成対象団体	Give One認証登録団体から以下の1団体を助成対象とした

	NPO法人 おおいた環境保全フォーラム
助成期間	2024年2月1日～2025年1月31日

<森山秀男基金>

本基金は2019～2020年度に遺贈として受け入れた530,822,050円の資金を基に、運用型の基金として創設した。本基金の運用益は、寄附者の生前のご希望に従い、2023年度以降において、遺贈者が長年操業していた地域で、関連する人々及び地域の社会福祉、文化の興隆、経済の振興に資することを目的に活用される予定である。2023年度は、引き続き今後の具体的なプロジェクトを実施するための資金を捻出するため、投資信託等による資金運用を実施した。

<匿名基金A>

本基金は、社会的に最も弱い立場にある子どもたちを守る活動に取り組む非営利団体を対象に資金助成を行い、社会的弱者である子どもたちの生命と暮らしと未来を守ることを目的として2020年度に創設された。

2023年度は第2期助成としてプログラムの刷新を行い、生命に関わる障害を持ち医療的なケアを常時必要とする「医療的ケア児」等を支えるために活動する、家族を中心とした当事者による「中間支援組織」に対する資金的支援を行うこととし、過年度に受け入れた8,000,000円の寄附を原資とし、1団体に対して合計2,000,000円の資金助成を実施した。なお、本助成事業は1年あたり200万円を上限とし、原則として3年間の継続助成を想定している。

過年度寄附金額	8,000,000円
助成額	2,000,000円
公募	2023年6月21日～2023年7月18日
応募	1件
審査会	2023年8月1日～2023年8月28日
選考委員	渡辺 元（公益財団法人助成財団センター 理事） 西田 治子（一般社団法人 Women Help Women 代表理事） 米田 佐知子（子どもの未来サポートオフィス 代表）
審査結果	以下の1団体を選定した 全国医療的ケアライン
助成期間	2023年4月～2024年3月31日

<女性リーダー支援基金 ～一粒の麦～>

本基金は日本における意思決定過程への女性の一層の参画を通じ、女性の社会的地位の向上を図ることをめざし、相続財産からの寄附に基づき創設された。2019 年度に受け入れた寄附金 40,000,000 円を基に、3 年間で計 15 名～20 名を選定し、1 人あたり 100 万円の活動奨励金を支給。女性リーダーシップ開発やビジョンの実現の支援に活用される。また、本基金の広報等も積極的に行い、国内における女性リーダーの育成・支援への共感や社会的認知度の向上に努める。

2023 年度は新たに、本基金に賛同する方々から 330,000 円の寄附を受け入れた。活動面では、支援対象を「政治家志望」「社会活動の実践者」「社会起業家志望者」「女性のためのアクションリサーチ企画・実践者」の 4 分野に分け、自薦による応募者を募集。様々な分野でリーダーを目指す 7 名の女性を選出された。また、受賞者・応募者・寄附者を対象とした勉強会を 7 回開催した他、12 月に本基金の交流ミーティング（受賞式、活動報告会）を開催した。

受入寄附金額	330,000円
助成額	7,000,000円
公募	2023年7月18日～8月31日
応募	103名
審査会	一次審査会：2023年9月29日 二次審査会：2023年10月17日
選考委員	上野 千鶴子（社会学者／東京大学名誉教授／認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク 理事長） 浜田 敬子（ジャーナリスト） 及川 美紀（株式会社ポーラ 代表取締役社長） 小木曾 麻里（SDGインパクトジャパン Co CEO） 能條 桃子（一般社団法人 NO YOUTH NO JAPAN 代表理事／FIFTYS PROJECT 代表理事）
審査結果	以下の 7 名を選定した 石戸谷 由梨（国内最大級の女性&ノンバイナリーの方向けハッカソン「Dots to Code」） 郡司 日奈乃（一般社団法人Spice／千葉大学大学院人文公共学府博士後期課程） 芹ヶ野 瑠奈（日本若者協議会／早稲田大学政治経済学部） 鶴田 七瀬（一般社団法人ソウレッジ） 富永 華衣（首都圏青年ユニオン）

	中村 涼香 (KNOW NUKES TOKYO／上智大学) 原田 いくみ (一般社団法人ハウリング)
助成期間	2023年11月～3年間

受賞者・応募者・寄附者向け 女性リーダー勉強会	
2023年7月27日	講師：南 彰 テーマ：「政治部不信」ボーイズクラブを次世代に引き継がないために
2023年8月28日	講師：津田 大介 テーマ：「黄金の3割」を目指すために必要なこと
2023年10月19日	講師：平田 麻莉 テーマ：自分の名前で働くということと、自走する組織の作り方
2023年11月20日	講師：安淵 聖司 テーマ：「リーダーシップと影響力」-グローバルカンパニーの現場から-
2024年1月16日	講師：青野 慶久 テーマ：選択的夫婦別姓から始まる日本の進歩
2024年2月7日	講師：鈴木 款 テーマ：テレビ記者からみた魅力的な広報とは
2024年3月19日	講師：松中 権 テーマ：「誰もが自分らしく暮らせる社会づくり」～LGBTQ+の可視化と法整備～

#### <NOBUKO 基金>

本基金は、相続財産からの寄附により創設された。故人の遺志に従って、困難な状況を生きている子どもたちが困難を乗り越え、それぞれの可能性を最大限に伸ばせるように支援を行っている NPO 法人等の民間非営利組織に対し資金助成を図り、困難を抱える子どもや家庭に育つ子どもたちを支援することを目的としている。

2021年度に行った公募において6団体が助成対象として既に決定しており、2021年度から2023年度までの3年間継続助成することとしている。

2023年度では継続審査会を実施し、6団体全ての継続助成が承認され、2023年度の助成金15,000,000円が交付された。

助成額	15,000,000円
審査会	2023年5月18日～6月2日



審査委員	雨森 孝悦（日本福祉大学福祉経営学部 招聘教授） 赤石 千衣子（NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ 理事長） 西野 博之（認定 NPO 法人フリースペースたまりば 理事長）
審査結果	以下の 6 団体を選定した（継続） NPO 法人 ファミリーステーション Rin NPO 法人 グッドネーバーズ・ジャパン 認定 NPO 法人 女性のスペース結 認定 NPO 法人アトピッ子地球の子ネットワーク NPO 法人 障がい者みらい創造センター 認定 NPO 法人 フリースペースたまりば
助成期間	2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

#### <上村清子&幸男結核予防基金>

本基金は、結核症の新規感染者が発生している現状から、その予防支援や治療活動に取り組んでいる医療機関や非営利団体や研究者、専門家へ資金助成を行うことを目的に、個人からの寄附を受け 2021 年に創設された。

2023 年度は 20,000 円の寄附受け入れをおこなった。

#### <感動体験支援基金>

本基金は、国内に住む経済的に困難な状況下にある子どもたちに“感動体験”を提供することにより、子どもたちが自分で自分の将来を選択する意欲を得るきっかけとし、自分らしい人生を切り拓くことによって将来的に貧困の連鎖を断ち切ることに寄与することを目的に創設された。本基金は、一般社団法人プロジェクト希望と協働で実施するものである。

2023 年度は、1 件 9,246,300 円の寄附を受入れ、全 6 団体に対して合計 8,028,080 円の資金助成を実施した。

受入寄附金額	9,246,300 円
助成額	8,028,080 円
審査会	2023 年 9 月 12 日
審査委員	今村 亮（認定 NPO 法人カタリバ パートナー、桜美林大学 高大連携 コーディネーター） 平井 一夫（一般社団法人プロジェクト希望 代表理事） 李 炯植（認定 NPO 法人 Learning for All 代表理事）
審査結果	以下の 6 団体を選定した 一般社団法人 青草の原 認定 NPO 法人 CLACK NPO 法人 キリンこども応援団

	NPO 法人 芸術家と子どもたち 認定 NPO 法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 一般社団法人 UME プロジェクト
助成期間	2023年10月1日～2024年9月30日

#### < 渡邊利三国際奨学基金 >

本基金は、難民の背景を持つ若者の大学進学を支援するため、渡邊利三氏の寄附をもとに創設されたものである。

難民となる困難な経験を経ても、学びを続け、将来社会に貢献しようと努力する若者達の支援を目的にしている。その中でも特に、従来日本で奨学金応募の機会が限られていた、期間限定の在留資格の人々を対象にしており、進学と就職を経て、将来安心して日本社会で暮らし、活躍できるよう支援する。

本基金の運営には、難民の状況となった人々に、日本で高等・専門教育を受ける機会を作り、提供する活動を行っている一般財団法人 パスウェイズ・ジャパンが協働して取り組んだ。

2023 年度は、2022 年度までに選定した奨学生の学業や生活に関する活動報告等を取りまとめた。

#### < 塩沼亮潤 大阿闍梨基金 ～ともに寄り添うプラットフォーム～ >

本基金は塩沼亮潤大阿闍梨（福聚山 慈眼寺住職）の寄附によって創設された。世の中には、貧しさ、家庭の事情、災害など自分自身では選び取れない運命の中で、厳しい暮らしを余儀なくされている子どもや人々が現実に存在している。そうした一人ひとりにも、夢があるはず。その人生を下支えする助けとするために、本基金は塩沼亮潤大阿闍梨の私財の寄附 1,000,000 円（2021 年度受入済み）をもとにスタートしているが、この大阿闍梨の志に共鳴・共感いただける皆様からの「共感寄付」も基金に受け入れている。2022 年末に目標とする寄附金額に達したため、厳しい暮らしに直面している子どもや生活困窮者をケア・支援する非営利団体などに対して公募を行い、2023 年度に 11 団体に対して合計 4,598,800 円の資金支援を行った。

受入寄附金額	10,869,828 円（2021 年 12 月から 2023 年 1 月までの累計） （うち 2023 年度の受入寄附金額は 3,293,850 円）
公募期間	2023 年 2 月 14 日～2023 年 3 月 31 日
応募件数	57 件
審査会	2023 年 5 月 12 日
審査委員	宮本 みち子（千葉大学・放送大学 名誉教授） 目加田 説子（中央大学総合政策学部 教授）

	奥田 知志（認定 NPO 法人抱樸 理事長／日本バプテスト連盟東八幡キリスト教会 牧師） 伊井 哲朗（コモンズ投信株式会社 代表取締役社長） 塩沼 亮潤（慈眼寺住職／大阿闍梨）
助成額	4,598,800 円
審査結果	以下の 11 団体を選定した 居場所づくりサークルにあ NPO 法人がんばろう福島、農業者等の会 NPO 法人子どもの育ちを応援する会 一般社団法人そーしゃる・おふいす 高槻つばめ学習会 のわみ相談所 NPO 法人放課後こどもクラブ Bremen NPO 法人ほっぷすてっぷ 町方ふれあい子ども食堂 NPO 法人 mia forza リビング下関（フードバンク）
助成期間	2022 年 6 月 ～ 2023 年 3 月 末

#### <白い鳥ひと粒基金>

本基金は、白鳥幸子さんと夫の故嘉裕さんの志に基づき 2022 年度に創設された。基金がフォーカスする 3 つの支援分野（1. 難民などの子どもの教育支援、2. 児童養護施設出身の子どもの教育支援、3. 障害をもつ人たちの芸術活動）の 1 つである「難民などの子どもの教育支援」において、日本政府に対して難民申請中の若者に、日本の専門学校や大学等の高等教育を受けるための奨学金を給付することを目的としている。難民として生き抜くことを決意し、一筋の希望の光をもって日本に渡ってきた、未来ある若者が、その将来を切り開くために、日本で高等教育を受ける機会を提供するものである。

進学先の入学金・授業料の一部として、奨学生 1 名あたり、卒業までに上限 200 万円の給付型奨学金を支給する。

2022 年度に 5,000,000 円の寄附金を受け入れ、審査会を経て、2022 年度内に正式に奨学生を 2 名決定した（助成期間：1 名は 2 年、1 名は 4 年）。この奨学生に対し、2023 年度は総額 500,000 円の奨学金を給付した。

受入寄附金額	0 円
奨学金	500,000 円
選考委員	杉本 大輔（全国難民弁護団連絡会議事務局） 鈴木 江理子（国士舘大学文学部 教授）

	岸本 幸子（公益財団法人 パブリックリソース財団 代表理事）
助成期間	奨学生決定時～2026年3月31日

<Y's D&I 基金>

本基金は、多様な個性を尊重し共生していく D&I 社会の考え方を広げる、新たな試みへのチャレンジを期待して 2022 年度に創設された。高校生までの子どもたちを対象に、多様性とインクルーシブな視点の獲得を目指し、国際交流、教育、スポーツや音楽、ボランティア活動等の体験活動、場の提供などを行う、先駆的な活動を支援することを目的としている。

2023 年度は 5,000,000 円の寄附を受け入れ、全 5 団体に対して合計 4,000,000 円の資金助成を 2024 年度に行う予定である。

受入寄附金額	5,000,000 円
助成予定額	4,000,000 円（※2024 年度助成予定）
公募	2024 年 1 月 12 日～2024 年 2 月 14 日
応募	49 件
審査会	2024 年 3 月 26 日
選考委員	田村 太郎（一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事） 萩原 なつ子（日本 NPO センター 代表理事／独立行政法人国立女性教育会館 理事長） 竹内 弓乃（NPO 法人 ADDS 共同代表） 茂木 義三郎（元公益財団法人三菱財団 常務理事）
審査結果	以下の 5 団体を選定した 一般社団法人 KaiKai 多機能型事業所 LaLa 社会福祉法人 呉竹会 NPO 法人 ナタデココ 一般社団法人 えんがお NPO 法人 BLACKSOX
助成期間	2024 年 4 月～2025 年 3 月末

<一柳ウェルビーイングライフ基金>

本基金は、子ども、若者、成人、高齢者、終末期などさまざまなライフステージにおいて、人が尊厳をもって心豊かな生活を送り、生ききることを目指す活動を行っている NPO 法人等の民間非営利組織に対し資金助成をはかり、その活動を支援することを目的に個人からの寄附を受け創設された。

初年度は、6,000,000 円の寄附を受け入れ、1 団体当たり 120 万円を上限とする資金助成を行い、全 4 団体に対して 4,800,000 円の資金助成を実施した。

受入寄附金額	6,000,000 円
助成額	4,800,000 円
公募	2023 年 6 月 7 日～2023 年 7 月 7 日
応募	73 件
審査会	2023 年 8 月 17 日
選考委員	横川 善正（公立小松大学 副学長／金沢美術工芸大学 名誉教授） 一柳 弘子（本基金寄附者／一般財団法人一柳ウェルビーイングライフ 代表理事） 打田 篤彦（神戸大学ウェルビーイング先端研究センター・神戸大学 院人間発達環境学研究科 助教） 江口 八千代（NPO 法人ファミリーハウス 理事長／内閣府休眠預金 等活用審議会 専門委員） 志村 季世恵（一般社団法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティ 代表理事／こども環境会議 代表）
審査結果	以下の 4 団体を選定した NPO 法人 ウィーズ 社会福祉法人 あいの実 認定 NPO 法人 ポケットサポート 一般財団法人 たんぼぼの家
助成期間	2023 年 8 月末～2024 年 8 月末

#### 4-3) テーマ基金

##### <あい基金>

すべての女性が自らの力で人生を選択できる社会を目指し、経済的自立など女性にまつわる課題解決に取り組む事業を支援する、女性のための基金「あい基金」を運営している。2020 年以降、“女性不況”とも呼ばれるように、コロナ禍で女性の貧困の深刻化や孤立が進み、女性を取り巻く外部環境に大きな変化がうまれていることから、あい基金の活動方針を見直している。2023 年度の寄附受け入れ実績はなかった。

#### 4-4) 民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律に伴う事業

民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律に基づき、指定活用団体である一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）により、当財団は2022年度までに以下の7事業（①～⑦）が既に採択されている。

##### 【休眠預金等活用事業一覧】

- ① 2019年度通常枠「子ども支援団体の組織基盤強化」  
※2022年度をもって事業終了
- ② 2019年度通常枠「支援付き住宅建設・人材育成事業」  
※2022年度をもって事業終了
- ③ 2020年度通常枠「中核的フードバンクによる地域包括支援体制」  
※2023年度をもって事業終了
- ④ 2020年度新型コロナウイルス対応緊急支援助成枠「コロナ禍の住宅困窮者支援事業」  
※2021年度をもって事業終了
- ⑤ 2021年度通常枠「子どもシェルター新設事業」
- ⑥ 2022年度新型コロナウイルス対応緊急支援助成枠「コロナ禍の住宅困窮者支援事業2」  
※2023年度をもって事業終了
- ⑦ 2022年度通常枠「様々な困難を抱えて困窮する女性の経済的自立支援事業」

##### 【個別事業の実施状況】

##### ③ 中核的フードバンクによる地域包括支援体制

本事業は、地域の食支援ネットワークの中核となる団体の基盤強化を行い、継続的な食品・資金調達につなげ、地域のフードバンク、子ども食堂、フードパントリー等と連携関係をつくることを通じ、県域レベルの包括的な食支援の体制構築を目指す。ネットワークを組成する各種食支援団体によって支援を必要とする世帯に支援が届くのみならず、支援対象者が食に欠く状況から脱し、それぞれの事情に応じた公的支援に繋がっている状態を目標とする。

2023年度は、2020年度に決定した実行団体への3年目の助成金交付と各実行団体の助成事業の伴走支援を行った。また、3年目の助成事業の実施にあたり継続審査会を行い、実行団体としての適格性・事業進捗を確認した。なお、本事業の実施期間は2023年度までとなる。

受取助成金額	214,982,243円（3年間総額、PO関連経費、評価関連経費含む）
助成額	154,642,263円（3年間総額、評価関連経費含む）
公募	2021年2月3日～2021年3月26日

応募件数	20 件
継続審査会	2023 年 3 月 10 日
審査員	渡辺 元（公益財団法人助成財団センター 理事） 徳永 洋子（ファンドレイジング・ラボ 代表） 中尾 洋三（味の素株式会社サステナビリティ推進部社会グループ） 三島 理恵（NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ マネージャー） 米山 広明（一般社団法人全国フードバンク推進協議会 事務局長）
審査結果	以下の 5 団体を選定した（継続） 認定 NPO 法人フードバンク山梨 企業組合労協船橋事業団フードバンクちば NPO 法人フードバンクネット西埼玉 NPO 法人フードバンク TAMA 公益社団法人フードバンクかながわ
事業実施期間	2021 年 7 月（契約締結後）～2024 年 3 月

#### ⑤ 子どもシェルター新設事業

本事業は、困難を抱える子どもの権利回復を目的に、子どもの代弁者としての弁護士や福祉関係者らが中心となりながら、居場所のない子どもたちの緊急避難所となる子どもシェルターを、子どもシェルター未設置地域に開設し、児童自立生活援助事業として持続的に運営する団体を支援する事業である。

2023 年度は、2021 年度に決定した実行団体への 2 年目の助成金交付と、各実行団体の助成事業の伴走支援を行った。また、2 年目の助成事業の実施にあたり継続審査会を行い、実行団体としての適格性および事業進捗を確認した。なお、本事業の実施期間は 2024 年度までとなる。

受取助成金額	135,828,299 円（3 年間総額、PO 関連経費、評価関連経費含む）
助成額	89,250,000 円（3 年間総額、評価関連経費含む）
公募	第 1 回：2021 年 11 月 24 日～2022 年 1 月 31 日 第 2 回：2022 年 7 月 26 日～2023 年 1 月 31 日
応募件数	第 1 回：5 件 第 2 回：0 件
継続審査会	2023 年 2 月 28 日
審査委員	宮本 みち子（放送大学客員教授 名誉教授／千葉大学 名誉教授） 影山 秀人（NPO 法人子どもセンターてんぼ 理事長／弁護士） 土居 聡（和歌山県児童相談所常勤 弁護士）

	林 大介（浦和大学 社会学部 現代社会学科 准教授） 浅井 美絵（日本ファンドレイジング協会 認定講師／フリーランス ファンドレイザー）
審査結果	以下の4団体を選定した（継続） NPO 法人シェきらり NPO 法人子どもシェルターおるき（旧：高知子どもシェルター設立 準備会） NPO 法人こだま（旧：多摩に子どもシェルターを！準備会） 一般社団法人ラシーヌ（旧：福井に子どもシェルターをつくる会）
事業実施期間	2022年4月～2025年3月

#### ⑥ コロナ禍の住宅困窮者支援事業2

本事業は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で住まいや居場所を失い、生活の立て直しが必要な人を対象に、「住まい」と「就労支援含む自立支援」をセットで提供する社会的事業構築を、住宅物件取得のための初期投資へ資金提供することで支援し、その後の持続可能な支援付き住宅提供システムの構築を目指す事業である。

2023年度は、2022年度に決定した実行団体への助成金交付と、各団体の助成事業の伴走支援を行った。また、実行団体の継続的な事業運営のための資金調達の一環として、企業等の民間からの資金獲得（寄附獲得）を目的とし、企業主体の新しい社会貢献の仕組み「コーポレート・アクション募金」実施のためのオンラインプラットフォームを構築し実行団体を掲載、12月より運用を開始。広報、および活動報告会としてフォーラムを開催した。なお本事業の実施期間は2023年度までとなる。

受取助成金額	507,885,386円
助成額	499,885,397円
審査員	高橋 紘士（東京通信大学教授、一般財団法人高齢者住宅財団顧問） 宮島 俊彦（兵庫県立大学客員教授、日本製薬団体連合会理事長） 井上 由起子（日本社会事業大学専門職大学院教授） 柴沼 俊一（株式会社シグマクス常務執行役員） 小野田 峻（小野田高砂法律事務所代表弁護士）
実行団体	NPO 法人 Homedoor NPO 法人 あきた結いネット NPO 法人 自立支援ネットにいがた NPO 法人 DV 対策センター
事業実施期間	2023年4月（契約締結後）～2024年2月末



⑦ 様々な困難を抱えて困窮する女性の経済的自立支援事業

本事業は、困難な状態にある女性に対し、個々の支援ニーズに応じて緊急期支援から居住生活基盤整備、就労まで、切れ目のない支援により経済的自立を図る包括的支援モデル事業の構築を目指す。他地域での再現性・模倣可能性の高いものを目指し、地域の様々な機関、自治体との連携・協働を重視する。

実行団体は、シェルター事業、DV 被害等の女性支援、就労支援等で実績があり、法人格をもつ全国の団体を対象とした。

資金分配団体は、資金的な支援だけでなく、持続的な事業運営が可能となるよう、外部の専門家とともに資金調達や評価活動などを伴走支援する。

2023 年度は実行団体の公募・審査を行い、6 団体を実行団体として決定、1 年目の助成金交付と各団体の助成事業の伴走支援を行った。なお本事業の実施期間は 2025 年度までとなる。

受取助成金額	374, 113, 460 円 (3 年間総額、P0 関連経費、評価関連経費含む)
助成額	270, 000, 000 円 (3 年間総額、評価関連経費含む)
公募	2023 年 6 月 1 日～2023 年 7 月 31 日
応募件数	20 件
審査会	一次審査会：2023 年 9 月 19 日 最終面談審査会：2023 年 10 月 11 日
審査員	宮本みち子 (放送大学 副学長／千葉大学 名誉教授) 小安 美和 (株式会社 Will Lab 代表取締役) 近藤 恵 (NPO 法人全国女性シェルターネット 理事) 岡本 拓也 (千年建設株式会社 代表取締役社長／NPO 法人 LiveEquality HUB 代表理事) 植野 ルナ (公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会 事業企画課 長)
審査結果	以下の 6 団体を選定 NPO 法人 くまもと相談所 認定 NPO 法人 ピッコラーレ NPO 法人 さくらんぼ 認定 NPO 法人女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ NPO 法人全国ひとり親居住支援機構 NPO 法人ささえる
事業実施期間	2023 年 11 月 (契約締結日以降) ～2026 年 2 月末まで

## (2) 社会貢献活動についての情報提供、相談事業

社会貢献活動を促進したいと考える企業を対象に、以下の情報提供や成果評価を行った。

### <azbil みつばち倶楽部>

Azbil みつばち倶楽部は、会員（アズビル株式会社の役職員の有志）が毎月 100 円を拠出して集めた寄附をもとに、会員が推薦する市民活動団体に対して資金支援をすることを目的としている。2023 年度は、アズビル株式会社と業務委託契約を結び、支援先の募集、受付、選定、連絡、報告書の取り寄せ、本プログラムへのアドバイス等を行った。

## (3) 寄附を推進するための普及啓発活動等に関する事業

### 1) 個人や企業等からの寄附を喚起するための事業

遺言や相続に関係する寄附やオリジナル基金の創設について説明する各種パンフレットの作成に取り組んだ。遺贈寄附推進のために全国レガシーギフト協会の「いぞうの窓口」として活動した。

## (4) 社会的活動を行う団体等に対する助成事業

上記(4)は、(1)の事業において受け入れた寄附を活用する事業である。いずれの事業においても、広く対象を募集し、社会的活動や各種の公益活動分野に関して知見のある有識者で構成された委員会による公平かつ厳正な審査を経て選定を行う。(4)の助成事業については、(1)の事業で記載した。

## (5) 社会的活動を行う団体等に対する寄贈事業

### <株主優待活用プロジェクト>

一般社団法人ギビングフォワードと協働で取り組んだプロジェクトで、放棄されたり有効に使われなかった株主優待品を現物寄附として受け取り、社会貢献に取り組む民間非営利団体等に寄贈した。

受入寄附金額	4,782,349 円（現物寄附）
寄贈金額	4,109,805 円

## (6) 社会的活動を行う団体等に対する研修事業

2023 年度の実績は特になし。

## (7) 調査研究、情報発信、政策提言に関する事業

公益財団法人トラスト未来フォーラムから助成金を受けて、信託の社会的な活用可能性を広げること、社会課題解決のための使い勝手のよい信託スキームの開発を目的とした研究会を立ち上げた。研究会構成員は下表のとおりである。

2023年度は同フォーラムより900,000円の助成金を受領し、第1回～第5回までの研究会を実施した。

研究会 メンバー	氏名	所属
	鵜尾雅隆	日本ファンドレイジング協会 代表理事
	太田達男	公益財団法人協会 会長
	齋藤弘道	遺贈寄附推進機構株式会社 代表取締役
	溜箭将之	東京大学大学院法学政治学研究科・法学部 教授
	本郷順子	本郷税理士事務所
	水谷公彦	三井住友信託銀行株式会社 プライベートバンキング企画推進部
	大原誠	元オリックス銀行 執行役員

## <法人管理>

### 1 理事会・評議員会等

2023年度の開催経過は下表のとおりである。

会議の回数と開催日 及び開催場所（方法）	出席者数	議題
<b>2023年度第1回理事会</b> 2023年5月29日決議 （オンライン会議）	理事総数 8名 定足数 5名 理事出席 6名 監事出席 2名	<p>&lt;承認事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度事業報告及び財務諸表の決定</li> <li>・2023年度定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項（事業報告及び財務諸表の承認、評議員の選任、役員の選任、評議員及び役員の報酬並びに費用に関する規程の改正）の決定</li> <li>・顧問の選任</li> <li>・現物資産等寄附基金に関する基金明細書等の提出及び2023年度における本基金からの支出の決定</li> <li>・役員等との取引（2023年度予定）の承認</li> </ul>

		<p>&lt;報告事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の進捗状況について</li> <li>・2022 年度資産運用（運用型寄附基金）の状況について</li> <li>・役員等との取引について（2022 年度実績）について</li> <li>・その他</li> </ul>
<p><b>2023 年度第 2 回理事会</b> 2023 年 6 月 16 日決議 （書面決議）</p>	<p>理事総数 7 名 理事回答 7 名 監事回答 2 名</p>	<p>&lt;承認事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代表理事の選任について</li> </ul>
<p><b>2023 年度定時評議員会</b> 2023 年 6 月 16 日開催 （オンライン会議）</p>	<p>評議員数 11 名 定足数 6 名 評議員出席 8 名 理事出席 3 名</p>	<p>&lt;承認事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022 年度収支決算及び財務諸表の承認（他会計振替を含む）</li> <li>・評議員の選任</li> <li>・理事及び監事の選任</li> <li>・評議員及び役員の報酬並びに費用に関する規程の改正</li> </ul> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022 年度事業報告について</li> <li>・2023 年度事業計画及び収支予算について</li> <li>・2022 年度資産運用（運用型寄附基金）状況及び 2023 年度計画について</li> <li>・事業及び組織の運営・管理の進捗状況について</li> <li>・その他</li> </ul>
<p><b>2023 年度第 3 回理事会</b> 2023 年 8 月 4 日決議 （書面決議）</p>	<p>理事総数 7 名 理事回答 7 名 監事回答 2 名</p>	<p>&lt;承認事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助成審査委員会の設置及び委員の委嘱について</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）一柳ウェルビーイングライフ基金の助成審査委員会</li> <li>（2）エプソン社会の幸せ支援基金の助成審査委員会</li> <li>（3）女性リーダー支援基金の助成審査委員会</li> <li>（4）様々な困難で困窮する女性の経済的</li> </ol>

		自立支援事業の助成審査委員会
<b>2023 年度第 4 回理事会</b> 2023 年 11 月 9 日開催 (オンライン会議)	理事総数 7 名 定足数 4 名 理事出席 5 名 監事出席 2 名	<承認事項> ・助成審査委員会の委員の委嘱 (I.H.K. 基金) <報告事項> ・事業の進捗状況 ・業務執行理事の職務執行状況について ・2023 年度収支見込みについて ・2023 年度資産運用の変更手続きについて ・意見交換 (寄附獲得のための今後の戦略について)
<b>2023 年度第 5 回理事会</b> 2023 年 3 月 13 日開催 (オンライン会議)	理事総数 7 名 定足数 4 名 理事出席 6 名 監事出席 1 名	<承認事項> ・2024 年度事業計画及び収支予算の決定 ・2024 年度資産運用計画の決定 ・規程類の改正 (給与規程改定について) <報告事項> ・事業の進捗状況について ・その他

## 2 業務執行体制等

### (1) 執行体制

2023 年度は、久住剛理事長、岸本幸子専務理事の代表理事 2 名体制により、職務執行が行われた。

### (2) 職員等の状況

2023 年度末の職員数は 17 名であり、その主な役職の内訳は以下のとおりである。また、上記職員に加え、10 名のシニアフェローが前述の<事業活動>に記載した様々なプロジェクトの実施・運営に関わり、職員と連携して事業を遂行している。

《職員の内訳》

- ・事務局長 1 名
- ・プログラムオフィサー 13 名
- ・総務担当 1 名
- ・経理担当 2 名
- ・シニアフェロー 10 名

以上